

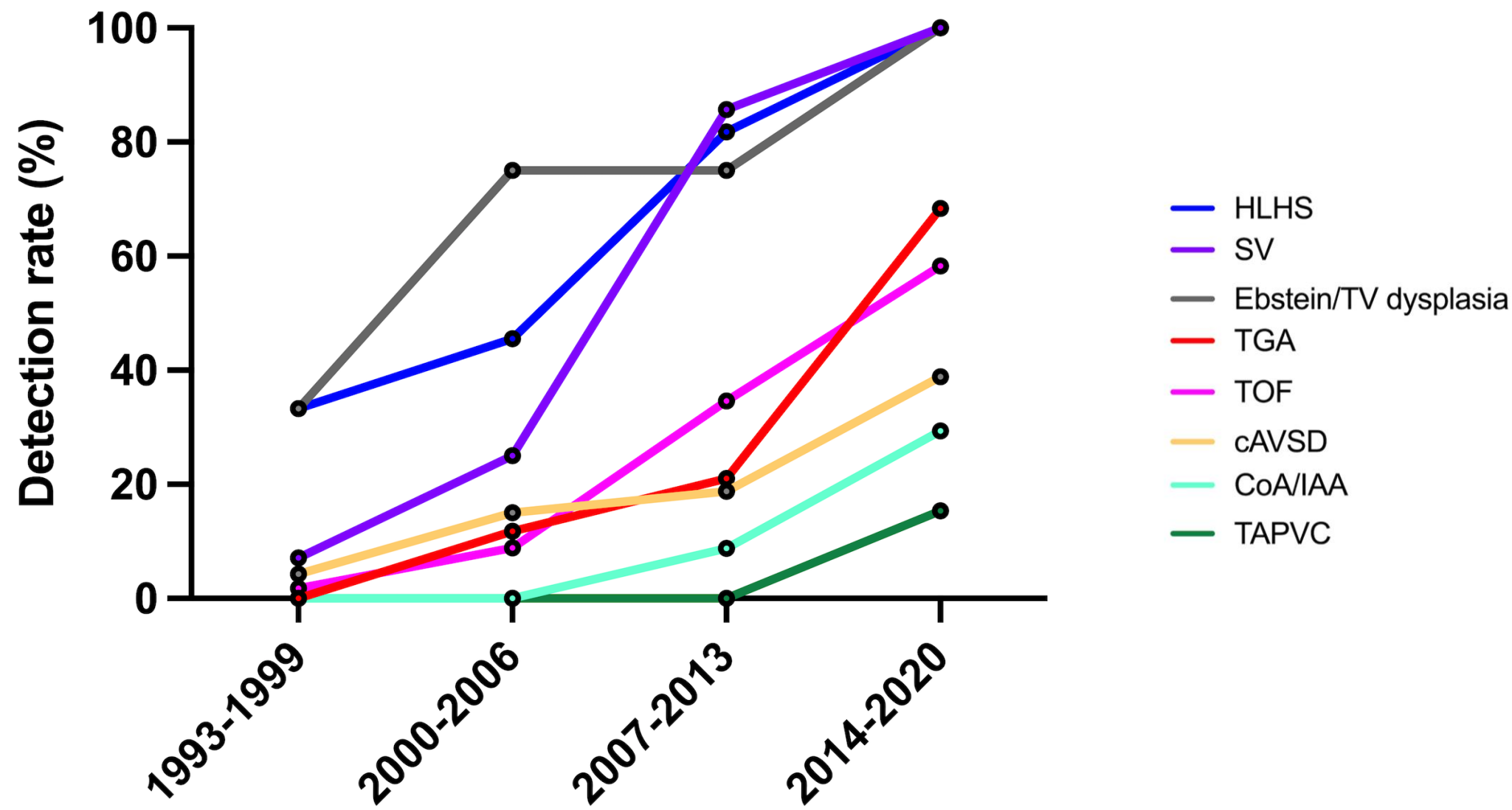
日本胎児心臓病学会スクリーニング委員会  
長野県 アクションプラン

# 長野県の胎児重症先天性心疾患診療



出生数/年 (2022年)	12143
重症孤発性先天性心疾患数 (2022年)	25
重症孤発性先天性心疾患数 10,000出生あたりの発生率 (2022年)	20.6
胎児心エコー精査 (レベル 2) 施設	長野県立こども病院
先天性心疾患の手術施設	長野県立こども病院
胎児心エコー認証医数(2022年)	9

# 長野県の重症先天性心疾患の胎児診断率の推移



# 長野県の胎児先天性心疾患診断率向上への取り組みへのproject

2021年～ 胎児重症先天性疾患の診断率を80%以上に向上するためのプロジェクト  
‘Raise to 80’ を開始した。



- ✓ 産科医、超音波技師対象の会員制webサイト
- ✓ 会員との双方向性の症例相談
- ✓ 教育: 胎児診断に関するビデオライブラリー  
定期的なweb勉強会

# 1, Raise to 80 project開始前後での重症胎児先天性心疾患 診断率の比較

	2018-2021	2021-2024
TGA	62.5% (10/16)	71.4%(5/7)
TAPVC	22.2% (2/9)	44.4% (4/9)
CoA/IAA	28.6 (2/7)	62.5 (5/8)
AVSD	60 (6/10)	66.7 (2/3)
TOF	66.7 (10/15)	61.5 (8/13)

✓ TGAの診断率は60-70%で頭打ち。

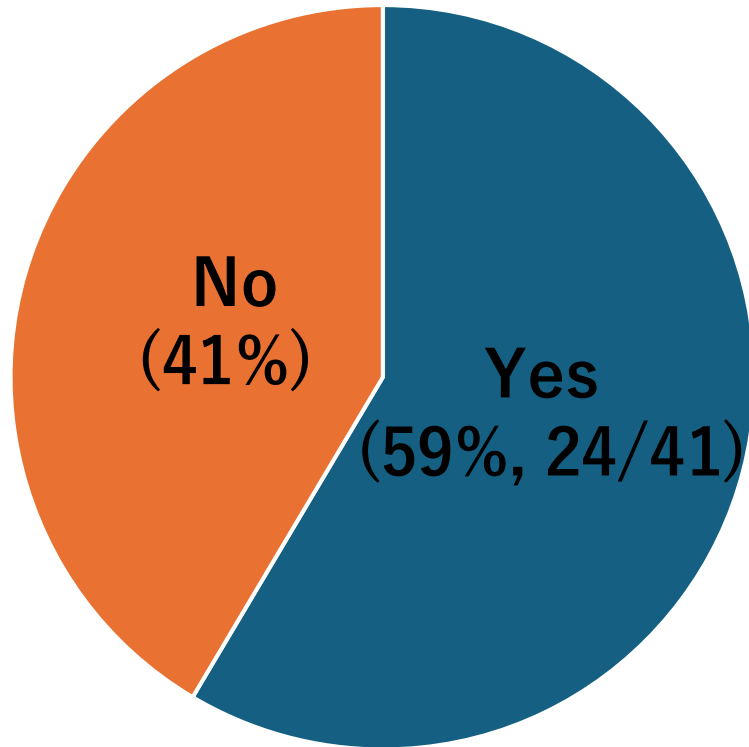
✓ TAPVCの診断率は依然として低い。

## 2, 長野県の産科医師へのアンケート結果

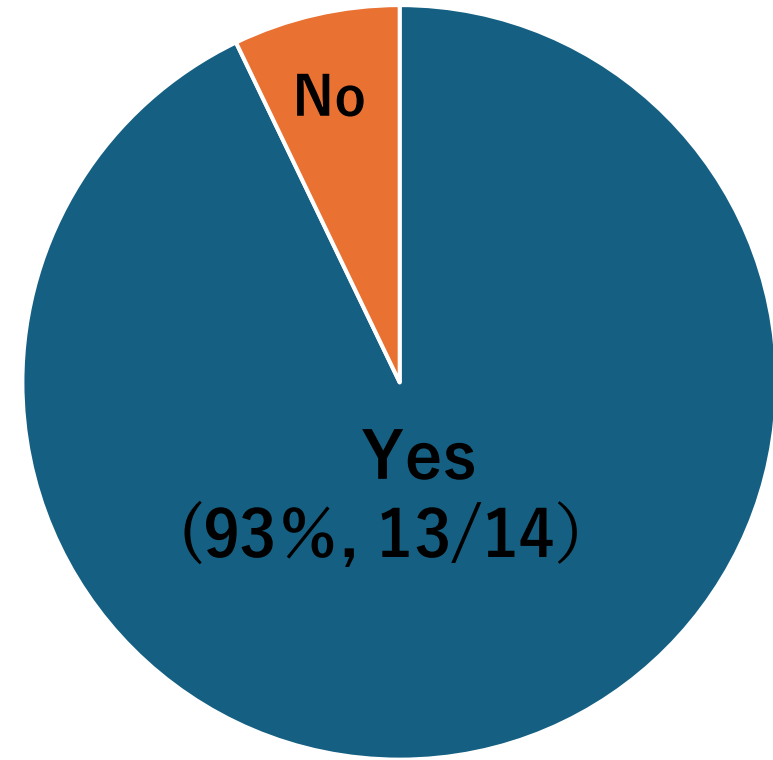
(回答率 95% (56/59施設) )

Q: 胎児心臓超音波スクリーニング検査を行っていますか？

クリニック



総合病院



✓ スクリーニングの実施に関しては施設間差異が大きい

## Q: 胎児心臓超音波スクリーニング検査を行っていない理由は？

:スクリーニングをしていないクリニック17施設

検査を実施したいが、胎児心臓スクリーニングのトレーニングを受けていない	11
他施設に紹介している（ため自施設では実施していない）	8
外来が忙しく、胎児心臓超音波検査に時間を割くことが難しい	7
検査を提供したいが、実施できる人がいない	4
胎児超音波検査（形態スクリーニング）は産科診療ガイドラインにあるように必須検査とされていないから	2
検査を実施したいが、胎児心臓スクリーニングが苦手である	2
検査を提供したいが実施（紹介）出来る施設がない	1

# 胎児先天性心疾患診断率向上への新たな取り組み

- ✓ まだ、検出率の十分でないTGA, TAPVCに目標を絞り、胎児心エコースクリーニング教育を強化して、さらなる診断率向上を目指す。
- ✓ 信州大学産婦人科学教室と話し合いを行い、共同の事業として、以下の事業を県下産科施設にアナウンスし、開始している。

- 1) 胎児心エコーの基本、TGA, TAPVCの胎児診断の教育ビデオを作成し、県内全産科施設へ配布。
- 2) 産科クリニックや総合病院へ直接出張し、胎児心エコーに関するレクチャー、胎児心エコーの機器設定から実技指導、アフターケアなどのトータルサポートを行う。



## 産科クリニックや総合病院への出張指導

県立こども病院 専門医が分娩施設に出張

## 胎児心エコー 技術普及



超音波発信器の動かし方を教える滝間浄宏医師(奥)  
＝5月23日、松本市の横西産婦人科

## 心疾患早期発見・治療へ

胎児の先天性疾患を出生に見つける「胎児心超音波検査（心エコー）」に関連し、県立でも病院（安曇野市）が今年、第一設備で異種を把握するタスク・フック検査を実施して、県内約60分の施設を対象に技術指導を始めた。専門の高い同病の医師が指に当たり、施設によってばらばらな検査がとられるスクリーニング検査の精度を高める目的。新生児の世間関わる心疾患を早期に見つけ、生後速く治療につなげる。

心エコーは妊婦の腹部に超音波を当てて胎児の心臓を調べる。県内では、各分娩施設も病院で「精査」を受ける。

左心低収縮症候や大血脈圧低下、肺動脈性肺高血圧といった急性心臓病は、新生児や乳児の死の主要因になっており、早期発見が救命の鍵を握る。

しかし、胎児の小さな心臓を観察する心エコーは、高いリーディング品質の設備が必要となる検査であり、多くの専門医が必要とされることも病院環境や外科部の技術によって、希望と分岐した。専門医が、超音波とフローアと呼ばれる超音波画像を心臓の腹に当て、胎児の心臓の動きをリアルタイムで観察するのを助ける。心臓科医や臨床検査師らがタレントリーディング検査を受ける。

この病院は、信州県立小児科連合会（松本市）を通じて、県内全の分岐施設に技術提供

この開始と異なり、松本、佐々  
導の開始と同様に、大田、矢  
の各市の設備は、町内行  
った。木黒木野の施設で  
も技術指導の予が先行し  
う。

これは、病院での検査の件数  
は、開院した1993年から  
増加を続け、直近10年間で  
50000件程度で増し  
ている。スクリーニングサ  
と検査により、生まれる肥  
大性心臓病は、おおむね70  
の割合、検出率は、おおむ  
だが、生活速やかな病が  
の水準を指すとしている。

必要な肺動脈造影常態  
は45%以下で、また、症例に  
ておおよそ1000人  
検出率を60%以上1年  
口シエントを開始、車大疾  
患を在る動脈、肺動脈に  
ける存在を動脈、肺動脈に  
に解説する取り組みもして  
ている。開院後は検出率、向  
上は、増進に至らず、スク  
リーニング検査の精度、高めのり  
の欠けられ、心エ  
のレベルが高い、全国ト  
の水準を指すとしている。

産科医「珍しい疾患 発見難しい」  
検査精度向上 赤ちゃんの救命に

県立とも病院が乗り出した。胎児心エコーのスクリーニング検査の技術指導。分娩を寄せる。

施設によつてはらつきがある検査の精度を底上げし、重大な疾患を早期に発見できれば赤ちゃんの救命率が高まるとも病院の滝間淳安医師は松

**胎心の聴こえ**（心エコー）  
妊娠の初期に超音波検査で胎心の好調健診の有無を確認する検査。胎位や羊水量などを確認する通常の超音波検査と異なる。各施設でのやり方・タイミング検査で異常が確認された場合、県立でも病院で「精査」を受ける。学芸大学では検査項目をまとめたガイドラインがあるが、実際の検査方法やタイムアップには現場の施設が委ねられる。この病院によると、胎児は、100人に1人の割合で先天性心疾患があるとされる。多くは軽症か中等程度が、重症の場合は出生直後に生命維持の治療を受ける。

本島立「横濱産婦科」を訪れ、横濱宮内長45と2人の臨床検査技師に、ロブの超音波発音器で、閉經の心臓を観察する方法を指導した。症例は少ないものの命に關する心疾患の画像を紹介した。

「信持? 判断をできように付た」と、目する。

この日、2時目のスクリーニング検査を受けた知代の妊婦は「問題なし」とされ、安心した様子。取材に「いちめんに病氣があるな、初めて知っておきたい。検査の精度が

横西産婦人科は、妊娠19週と分娩の妊婦を対象にタリニング検査を実施、心臓400人余が検査を受け、心臓に何らかの異常が見かり、ほとんどの病院で精密検査を受けるのは、程度という。

横西院長は詳しい検査の手

高まの親としてはとても心強い。産婦人科は、タリニング検査の妊婦の関心が高まれば、医療関係も精密向上させようという動機もある。親の意識も大切な要素と指摘する。

（難波淳）